



吉水神社の本殿―吉野町吉野山で



(住所) 吉野町吉野山579
(祭神) 後醍醐天皇、楠木正成、吉水宗信法印
(交通) 近鉄吉野駅から徒歩約30分

(拝観) 書院一般600円、中高生400円、小学生300円
(駐車場) 有。桜の季節利用不可
(電話) 0746・32・3024

吉水神社 (吉野町)

吉野町吉野山にある吉水神社は、天武天皇時代に役行者に創建された修験宗の僧坊で、「吉水院」と呼ばれていました。

1336(延元元年)、後醍醐天皇が吉野に潜幸した際、吉水宗信法印の援護でこの吉水院を南朝の皇居として南朝四代の歴史がはじまります。現



存する南朝の宮として、当時の貴重な品々がこの

書院に残されています。

1875(明治8)年に「吉水神社」と改め、後醍醐天皇、楠木正成、吉水宗信法印を祭神とする神社となりました。

後醍醐天皇の潜幸より約150年も前の1185(文治元)年、源義経

と静御前が弁慶とともに源頼朝の追手から逃れこで過ごしています。さらに1594(文禄3)年には豊臣秀吉が吉水院を花見の本陣として盛大な吉野の花見をしたことでも知られています。

このように数々の歴史の中で名をはせ、義経や後醍醐天皇や豊臣秀吉に

としても知られるようになっていきます。

(奈良まほろばソムリエの会会員 福岡康浩)

南朝の皇居 義経、秀吉も縁